2/2 赤旗

学生困窮、生活は限界

民青など各地で食料支援

30分で食材なくなる

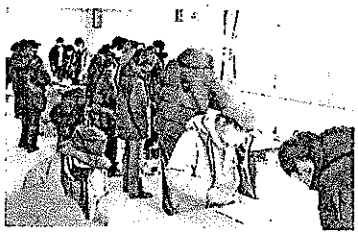
秋田

日本民主青年同盟秋田県委員会は1月30日、秋田市で3回目となる学生向け食料支援行動「食材もってけ市」を開きました。秋田大学に通う学生ら64人が訪れました。

開始時間の前から学生が列をつくって並びました。開始30分で用意した食材のほとんどがなくなり、急きょ、米やレトルト食品などを事務所から運んで追加しました。

訪れた学生らは「本当に無料でいいんですか？ お金を払いたいくらいです」や「お米が助かります」などとうれしそう。

初めて来たという国際資源学部4年生は、「大学院進学希望で入学金、前期授業料のために昨年2月からずっとアルバイトを続けてきたが、コロナ禍でアルバイトが三つからゼロになった時期もある」と述べ「大学院には日本学生支援機構の給付制奨学金制度がないので困っている」と進学後の不安を語りました。



食料支援行動を利用する学生たち＝1月30日、秋田市

食料品などを選ぶ学生たち＝1月30日、鳥取市

前回も食料支援を利用した理工学部2年生は、民青が取り組んでいる新型コロナに関する学生実態調査アンケートに「アルバイトがなくなったので、春休みは実家に帰る予定。3年生になると就職活動が始まるが、コロナ禍でどうなるのか不安」と書いています。

PCR自腹は「痛い」

鳥取

コロナ禍で困窮する学生に無料で食料品などを配る第5回「フードプロジェクト・学生食料支援」が1月30日、鳥取大学近くの会館で午前と午後に開かれ、91人の学生が利用しました。主催は同実行委員会。

コメ3キロ、袋麺、お菓子類をセットにした袋詰めを配り、ダイコン、シロネギ、イモ、みそ、ラッキョウも用意しました。

「母子家庭の非課税世帯で、コロナで母親がスーパーのパートを失業。給付制奨学金と2カ所のバイトで暮らしていて、授業料は全額免除です」（2年生女子）、「飲食店のバイトはコロナで首になり、収入は給付制奨学金だけ。食費は1日に200円程度」（2年生女子）、「1月はコロナでガソリンスタンドのバイトができず、ためた奨学金を取り崩して生活しています」（2年生男子）、「熱が出て1カ月バイトを休みました。5万円の収入が消え、PCR検査を自腹で受けたのが痛かった」（1年生女子）などの声が寄せられました。

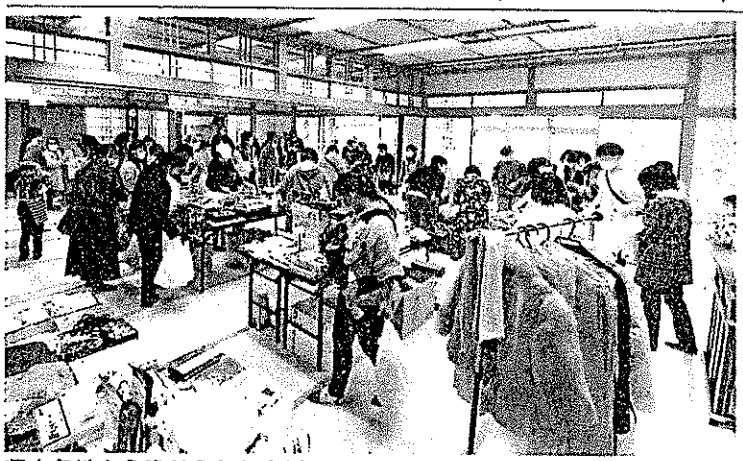
いつか恩返ししたい

鹿児島

鹿児島県の日本民主青年同盟などでつくる実行委員会「わけもんかごしまミーティング」は1月31日、新型コロナの影響を受ける学生や生活困窮者を支援しようと、食料品や日用品を無償で提供する「食材もってけ市」を鹿児島市和田にある妙行寺で開きました。

12月に続いて3回目の開催。学生や留学生など102人が訪れました。集まった募金で購入した品物や、県内各地から寄せられた野菜やコメなどの食品、ティッシュや衣類などの日用品が会場いっぱいに並べられました。

訪れた学生からは、「長期間バイトができなくて生活費を切り詰めている」「貯金を取り崩して生活している。4月から社会人になるのでいつか恩返しができるよう頑張りたい」などの声が寄せられました。



県内各地から寄せられた食料や日用品＝1月31日、鹿児島市